

# 藤沢での調査から5年、厚労省がヤングケアラー全国調査を実施へ。

## 「ウソつき」と取り合ってもらえなかった

昨年の9月、神戸市で22歳の幼稚園教諭が介護していた90歳の認知症の祖母を殺害する事件が起きました。

この女性は親族から祖母の介護をほぼ1人で担わされていました。

1～2時間おきにトイレに連れて

行き、排泄後はシャワーを浴びさせ、さらに深夜の散歩にも付き添うなど、女性は1日2時間ほどしか眠りませんでした。

一方、4月に就職したばかりの幼稚園では仕事に慣れず、連日上司や同僚に怒られてばかりだったといいます。

肉体的にも精神的にも追い詰められた女性は、ある日祖母から「あんたがおるから生きていても楽しくない」と認知症ゆえの罵声を浴びせられ続けます。

いくら謝っても許してもらえず、とっさに「おばあちゃん、もう黙って!」と口を押えたタオルで祖母を窒息死させてしまうのです……

この悲しい事件を報じた記事の中に、私がどうしても気になった箇所がありました。それは、職場でのこんな場面です。

職場で介護の話をして、「ウソつき」と、取り合ってもらえなかったという。

「孫が祖母を介護している」と話しても「ウソ」としか思ってもらえなかった、というのです。この女性の孤独と絶望はどれほどのものだったでしょう。

もし、この社会には「ヤングケアラー」と呼ばれる介護やケアを担う若者がいることについて理解がもっと広がっていれば、この事件は起きなかったのではないのでしょうか……

「限界だった」たった1人の介護の果て なぜ22歳の孫は祖母を手にかけてたのか

毎日新聞 2020年10月26日 12時06分 (最終更新 11月11日 22時22分)



事件現場となった一戸建ての玄関先には排水溝が覆われたまま放置されていた一神戸市須賀区で2020年10月23日午後4時53分、香増地区検視

黒髪をキュッと結んだポニーテール。白いブラウス。顔を上げた小柄な女性(22)は、年齢より幼く見えた。

9月、神戸地裁。幼稚園教諭だった女性は、初めて法廷に立った。同居していた祖母(当時90歳)の殺害を認め、「介護で覆られず、限界だった」と語った。親族から介護をほぼ1人で背負われ、仕事との両立に苦しんだ末のことだった。

毎日新聞 2020. 10. 28

## 藤沢で行われたヤングケアラー調査

「孫が祖母を介護しているなど、あるはずがない」おそらく上司や同僚はそう思い込んでいたのでしょう。

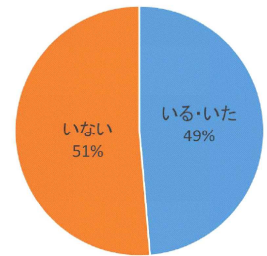
2015年、藤沢で小・中学校の教員を対象に「ヤングケアラー」についての実態調査が行われました。

ヤングケアラーとは高齢者や障害のある家族などをケアしている18歳以下の子どものことです。(18歳を越える場合は「若者ケアラー」とも呼びます。)

当時、そんな言葉はほとんど知られていませんでした。ですがその調査結果に私たちは衝撃を受けます。

調査に回答した教員の約半数が「現在・または過去にヤングケアラーに出会ったことがある」と答えたのです。

それまで介護やケアと言えば中高年以降の課題だと思われてきたかもしれません。ですが、少子高齢化が進み共働きやひとり親家庭が増えれば、子どももケアの担い手にならざるを得ません。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもの世話をしている



障がいや病気のある子どもの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

日本ケアラー連盟資料より

実際に藤沢での調査からは、つぎのような子どもがいることが浮かび上がりました。

- 母親が心を病んでいて「自殺したい」と口にするため、子どもが心配して学校を休んで付き添っている。
- 日本語のわからない外国籍の母親のために、学校を休んで通訳として病院に付き添う。
- 幼いきょうだいの世話のため、早退することがある。
- 親にかわって買い物や料理、きょうだいの保育園への送り迎えや風呂の世話をしている。
- 別居している祖父母の家へ行き、身体の弱い祖母のかわりに祖父の介助をしている。
- 家族のお金の管理をしている。

もちろんその子たちは、家族のために進んで「お手伝い」をしている場合も少なくありません。家族のケアがその子の人間的な成長につながることもあります。

ですが、調査では介護やケアをすることで「遅刻」「欠席」「学力がふるわない」などの影響が出ていることもわかりました。

	藤沢市調査 (回答数508)
遅刻	201
早退	43
欠席	286
忘れ物	134
宿題をしてこない	141
学力がふるわない	212

友だちと遊ぶことも、子どもらしい自分の時間を持つこともできず、将来の進路にも影響が出てくる……こうなるとは「美談」で済ませるわけにはいきません。

でも学校では、遅刻を繰り返したり宿題をしてこない子を「だらしない子」と見るだけで、その子たちの悩みに気づかずにいたことはなかったでしょうか。

神戸の幼稚園の話は他人事ではありません。ヤングケアラー調査は「子どもをどう見るか」を考える、大切な機会でもあったのです。

## 厚労省「ヤングケアラー」全国調査へ

もちろん、ヤングケアラーの存在は以前からマスコミなどで報じられてはきました。ただそれはあくまで断片的で、裏付けとなるデータは存在しませんでした。

ですから藤沢と、それに先だって新潟県南魚沼市で行われた調査はとても貴重なものだったのです。

続いて2020年には、埼玉県で全県の高校生本人を対象としたアンケート調査が行われました。この調査では「25人に1人がヤングケアラー」というたい

へんな結果があらわれました。

ケアの相手は高齢者が多くを占め、いちばん長い生徒では週に16時間以上の介護を行っていました。さらにケアを始めた時期では、約半数が高校入学以前からと答えています。

これらの調査結果を受けて今年の9月、厚生労働省はようやくヤングケアラーについての全国調査を実施することを発表しました。

5年前、藤沢の先生たちに多忙な中でご協力いただいた調査がヤングケアラー問題の基礎資料となり、いまや国を動かすにまでなったのです。



## わたし、かわいそうですか？

ただ、気をつけなければならないことがあります。

ある障害児のお母さんは「ヤングケアラーという言葉は私の胸に突き刺さる」とおっしゃいました。

障害のある妹を一生懸命世話してくれているお姉ちゃんを、私は誇りに思っていた。でも、私はお姉ちゃんにひどいことをしていたのだろうか……

けっしてそうではありません。今年の10月に出版された当事者の証言集「ヤングケアラー わたしの語り」の冒頭、成蹊大学の澁谷智子教授はこう書きます。

ここに来て、私はしばしばジレンマを感じる。下手をすると、ヤングケアラーが『かわいそうな存在』としてのみ捉えられてしまうという点だ。私自身もそうだが、ヤングケアラーが置かれている状況の厳しさを伝えようとする時には、どうしても、その子たちが経験した苦労の部分を中心に取り上げてしまいがちになる。……でも、ヤングケアラーの側から見てみたら、……もちろん、家族のケアをしたという現実はある、その時にしんどさを感じたことも事実だが、ヤングケアラーの経験はそれだけでは終わらない。若い時にケアを担ったことは、現在の自分を作っている大事な部分にもなっており、自分のその後の人生を選ぶ時のさまざまな選択につながっている。

この本の帯にはこうあります。「わたし、かわいそうですか？」、これも大切な視点です。

ヤングケアラーの存在を認めた上で、どのような支援が必要か社会の重要な課題としていかなくてもなりません。神戸の事件を二度と繰り返させないためにも。